

明日香村の観光について

(1) 明日香村の観光動向

1) 明日香村の観光動向と奈良県の中での位置

明日香の観光入込客数は昭和 50 年代に 150 万人を超えるピークをうった後は減少に転じており平成 4 年以降においても 98.7 万人から平成 13 年には 76.5 万人まで減少している。

奈良県全体の観光入込客数は平成 4 年 3870 万人から平成 13 年の 3550 万人まで緩やかに減少しており、明日香の観光入込客数は常に県全体の 2% 前後で推移している。

平成 4 年を 100 とした場合の平成 13 年までの入込客数は明日香の 78 ポイントに対して、奈良県全体は 92 ポイント、古都関連では奈良が 96 ポイント、山の辺が 98 ポイントと微減、橿原が 76 ポイント、斑鳩が 53 ポイントと半減している。

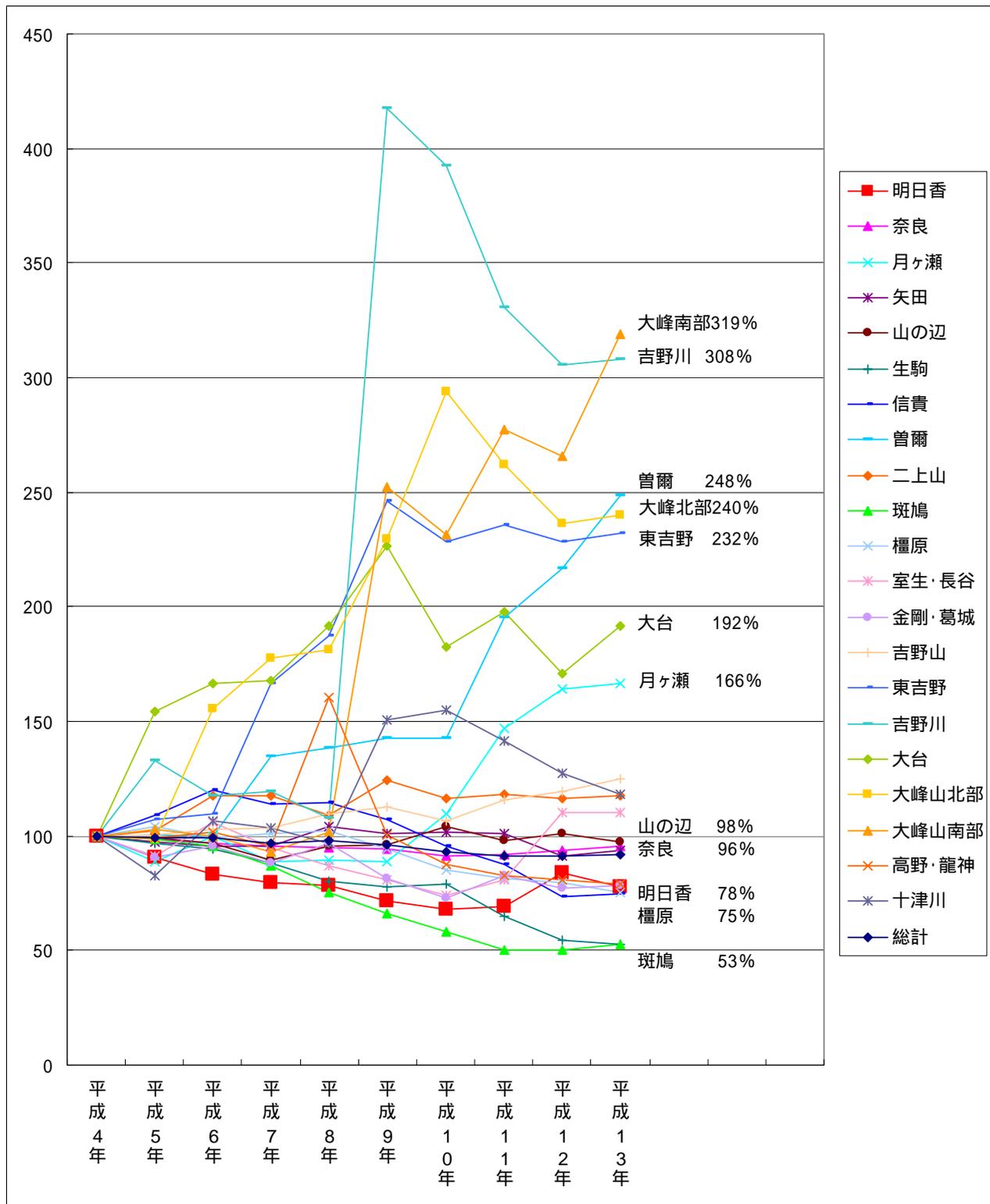
一方、総数では少ないものの大台・大峰や吉野川、曽爾などアウトドア系の観光地の伸び（平成 4 年比 150 ポイント以上）が目立っている。

表 3 - 1 奈良県の観光入込客数の推移

(単位：万人)

地域名	平成 4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	13 年
明日香	98.7	89.3	82.2	78.8	77.5	70.4	67.3	68.4	82.9	76.5
奈良	1,420.0	1,398.2	1,375.1	1,354.6	1,346.8	1,339.2	1,296.1	1,306.1	1,326.1	1,360.2
月ヶ瀬	32.5	28.9	32.4	28.9	29.0	28.8	35.7	47.7	53.4	54.1
矢田	77.7	75.6	74.1	74.1	81.0	78.4	78.8	78.3	71.0	72.8
山の辺	467.2	464.6	451.8	418.1	445.3	450.2	484.9	458.1	471.0	456.1
生駒	384.8	372.3	363.9	339.8	309.7	299.4	304.3	249.0	210.1	201.9
信貴	155.6	169.7	186.9	177.6	178.3	166.5	148.2	135.8	114.3	116.7
曽爾	22.9	23.0	22.8	30.9	31.7	32.6	32.7	44.7	49.7	56.9
二上山	63.1	64.4	74.3	74.1	68.8	78.3	73.3	74.5	73.3	74.3
斑鳩	136.6	134.4	130.4	118.6	102.6	90.0	79.3	68.3	68.2	72.2
橿原	491.2	512.5	487.7	495.4	503.4	463.8	417.1	401.4	391.0	369.0
室生・長谷	157.7	143.4	167.4	150.1	136.8	127.7	116.4	127.5	173.5	174.1
金剛・葛城	92.6	83.9	88.3	81.9	89.8	75.5	67.6	76.5	71.3	72.4
吉野山	79.9	80.4	82.0	82.7	87.7	90.1	85.2	92.7	95.4	100.0
東吉野	9.6	10.3	10.5	16.0	18.0	23.6	21.9	22.6	21.9	22.3
吉野川	5.2	6.9	6.1	6.2	5.6	21.7	20.4	17.2	15.9	16.0
大台	16.4	25.3	27.4	27.5	31.5	37.2	30.0	32.4	28.1	31.5
大峰山北部	35.6	35.1	55.4	63.2	64.5	81.7	104.7	93.3	84.1	85.5
大峰山南部	11.1	11.4	11.1	10.3	11.3	28.0	25.7	30.8	29.5	35.4
高野・龍神	82.4	81.8	83.5	78.9	132.3	82.7	71.9	68.3	66.5	65.3
十津川	30.2	25.0	32.2	31.2	29.3	45.5	46.7	42.7	38.4	35.6
総計	3,871.0	3,836.4	3,845.5	3,738.9	3,780.9	3,711.3	3,608.2	3,536.3	3,535.6	3,548.8
明日香の比率	2.5%	2.4%	2.2%	2.2%	2.1%	1.9%	1.9%	2.0%	2.4%	2.2%

図3 - 1 観光入込み数の増減（平成4年を100とした場合）





3) 明日香の観光の特徴

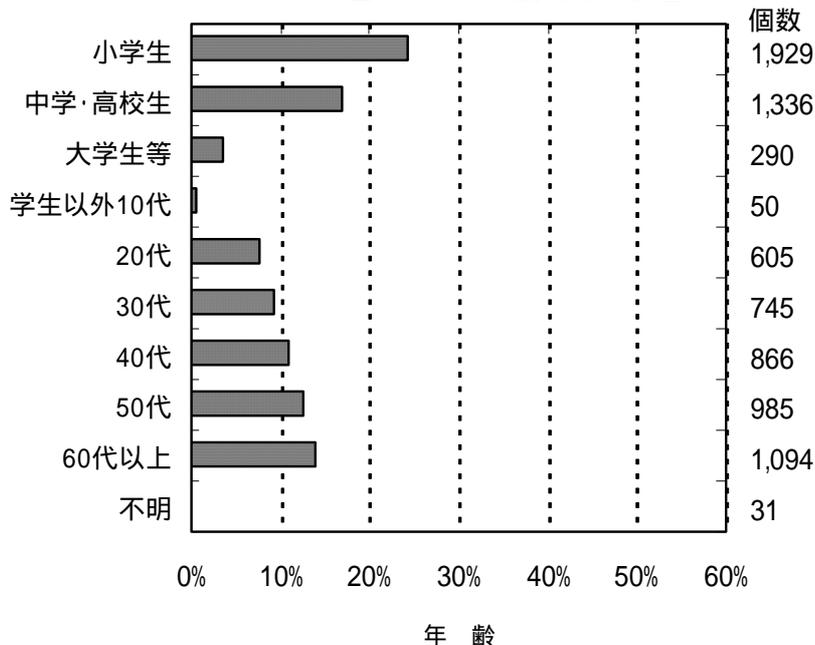
(出典:(財)公園緑地管理財団による平成11年~平成14年アンケート調査,総サンプル数7931)

来訪者の特性

年齢層

- ・「小学生」24%、「中学・高校生」17%が上位を占め、次に「60代以上」、「50代」が多い。
- ・少年層の比率が高いのは遠足や修学旅行などの団体旅行の利用によるものである。

図3-4 来訪者の年齢層



居住地

- ・「大阪府」が25%、「奈良県」が21%で上位を占め、次いで「兵庫県」、「愛知県」、「京都府」、「三重県」、「東京都」が多い。

来訪目的(複数回答)

- ・「史跡を巡る」がもっとも多く「風景を楽しむ」「歴史の学習」と続く。

来訪手段と飛鳥での移動手段

- ・明日香村までの来訪手段は「車」が44%と多く、次いで「電車」30%、「バス」17%。
- ・飛鳥での移動手段は「徒歩」が33%と多く、次いで「車」32%、「自転車」24%。
- ・「車」での来訪者のうち飛鳥での移動手段を「徒歩」「自転車」に替える人は29%

観光利用の特性

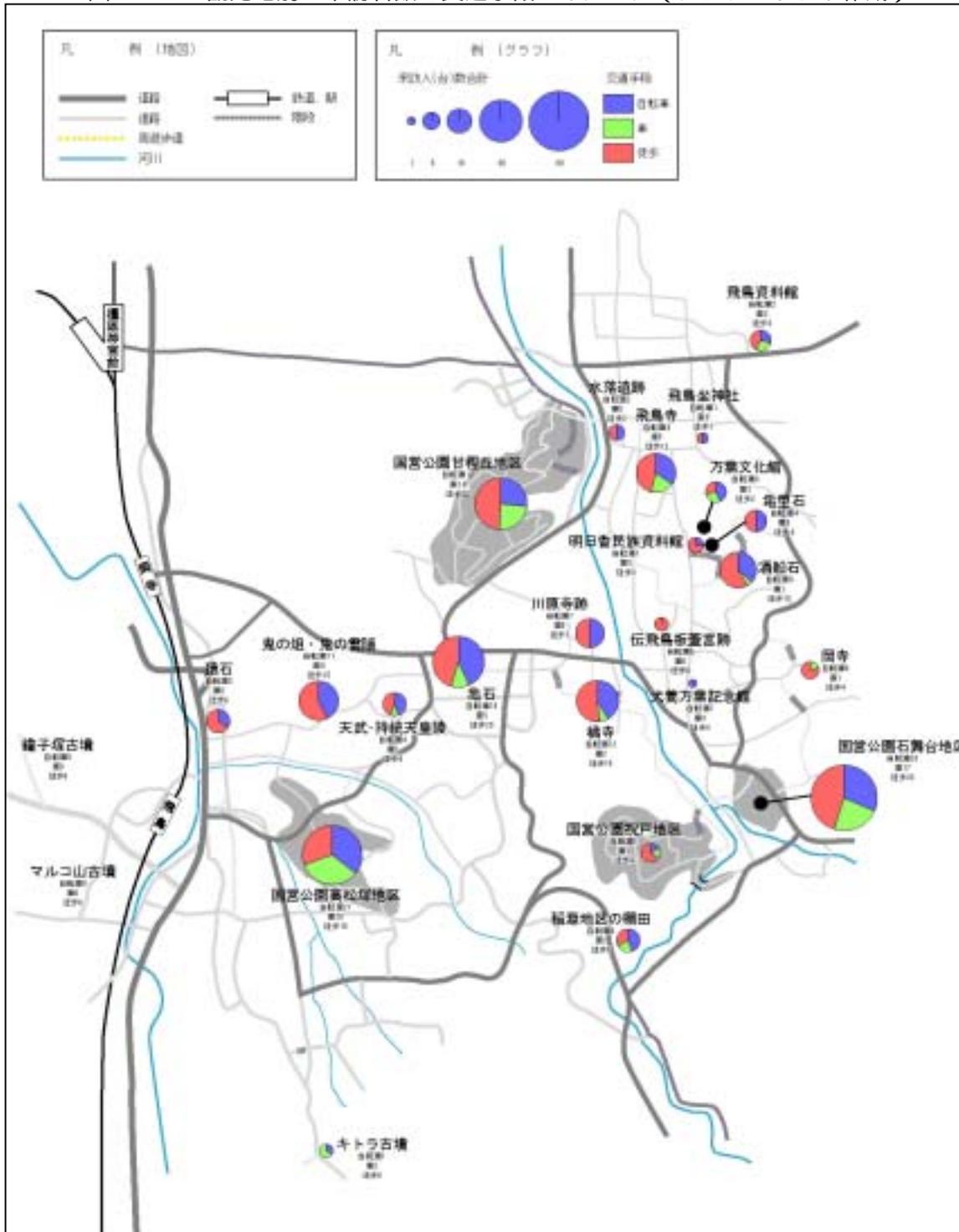
周遊箇所(出典:(財)公園緑地管理財団による平成14年10月4日(金)アンケート調査:総数153件)

- ・明日香村内における観光客の来訪箇所は、石舞台、高松塚、甘樫丘と国営公園地区が上位を占めている。これらに次いで亀石、飛鳥寺、橘寺の順になっている。
- ・移動手段別には自動車を利用した周遊は国営公園地区である石舞台、高松塚、甘樫丘が多く、徒歩、自転車を利用した周遊ではより多くの箇所を周遊する傾向が見られる。

表3 - 2 来訪箇所（上位6箇所）別の来訪割合

来訪箇所	全調査対象者中の来訪割合
国営公園石舞台地区	61% (94組)
国営公園高松塚地区	44% (68組)
国営公園甘樫丘地区	35% (54組)
亀石	30% (46組)
飛鳥寺	21% (32組)
橘寺	20% (31組)

図3 - 5 観光地別の来訪者数と交通手段のイメージ（アンケートより作成）



流動実態

(資料：(財)公園緑地管理財団による平成12年11月23日調査 = PHS を応用した調査用デバイスによる調査、有効データ数 65)

表3-3 移動手段別平均滞在時間(明日香村への滞在時間)

移動手段	平均滞在時間
徒歩	4 : 17
自転車	4 : 43
自動車	3 : 44
全体平均	4 : 20

表3-4 移動手段別平均立寄り箇所

移動手段	平均(箇所)	最小(箇所)	最大(箇所)
徒歩	5.4	1	9
自転車	6.8	1	15
自動車	3.9	1	9
全体	5.6	1	15

表3-5 滞在時間からみた観光スポットのカテゴリー化

滞在時間	スポット	備考
長い(30分程度以上)	<ul style="list-style-type: none"> ● 高松塚地区 ● 石舞台地区 ● 祝戸地区 ● 甘樫丘地区 	
中間(20分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ● キトラ古墳 ● 川原寺・橘寺 ● 犬飼万葉記念館 ● 民俗資料館・亀型石 ● 飛鳥寺 ● 国立飛鳥資料館*1 	*1 今回の調査ではやや滞在時間が短い。
短い(10分未満)	<ul style="list-style-type: none"> ● 猿石 ● 鬼の雪隠・鬼の俎 ● 天武・持統天皇陵 ● 亀石 ● 岡寺*2 ● 伝飛鳥板蓋宮跡 ● 酒船石 ● 水落遺跡 	*2 今回の調査のみの傾向と思われる。

図3-6 移動手段別・区間通過観光客数（徒歩）

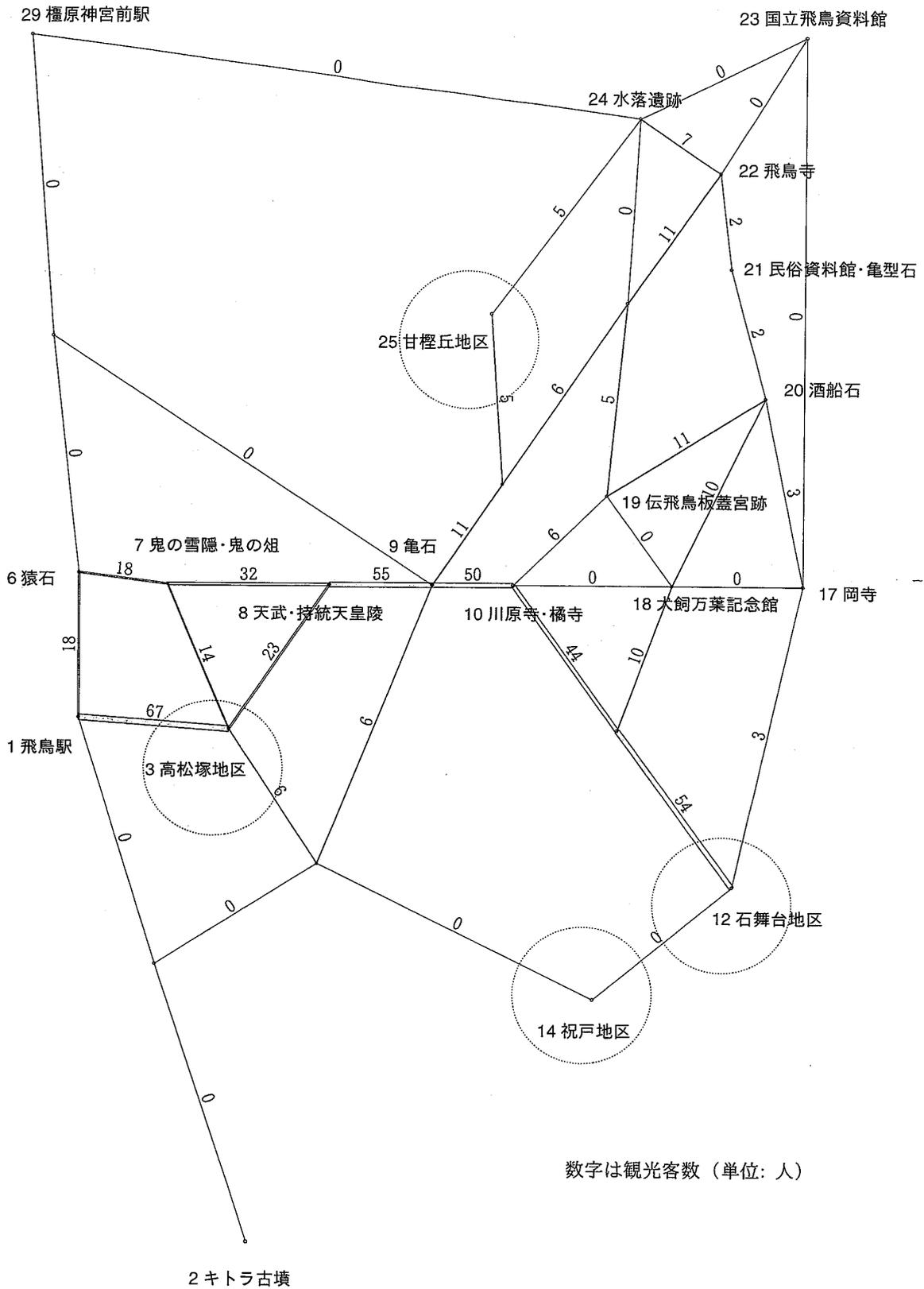


図3-7 移動手段別・区間通過観光客数（自転車）

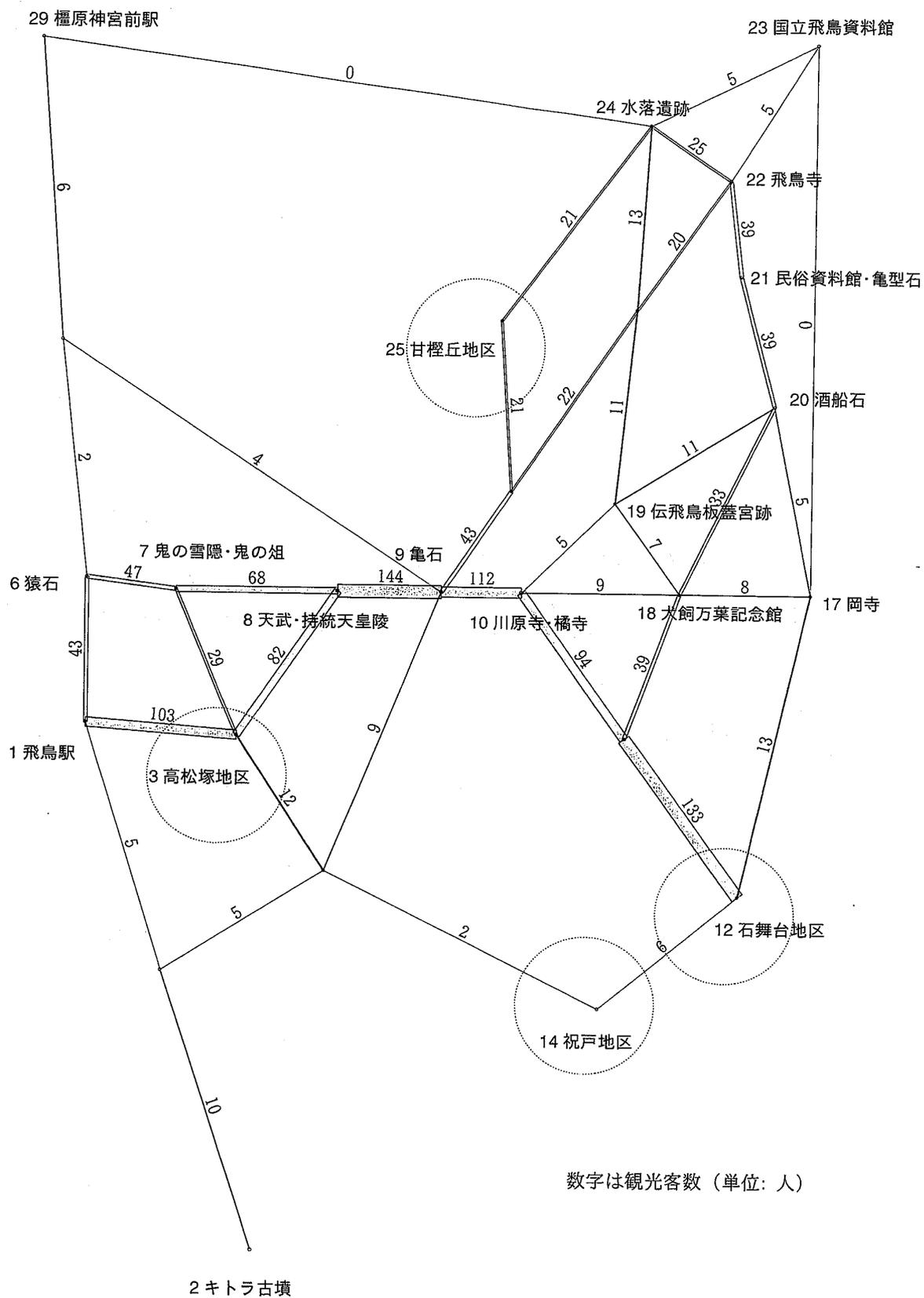


図3-8 移動手段別・区間通過観光客数(自動車)

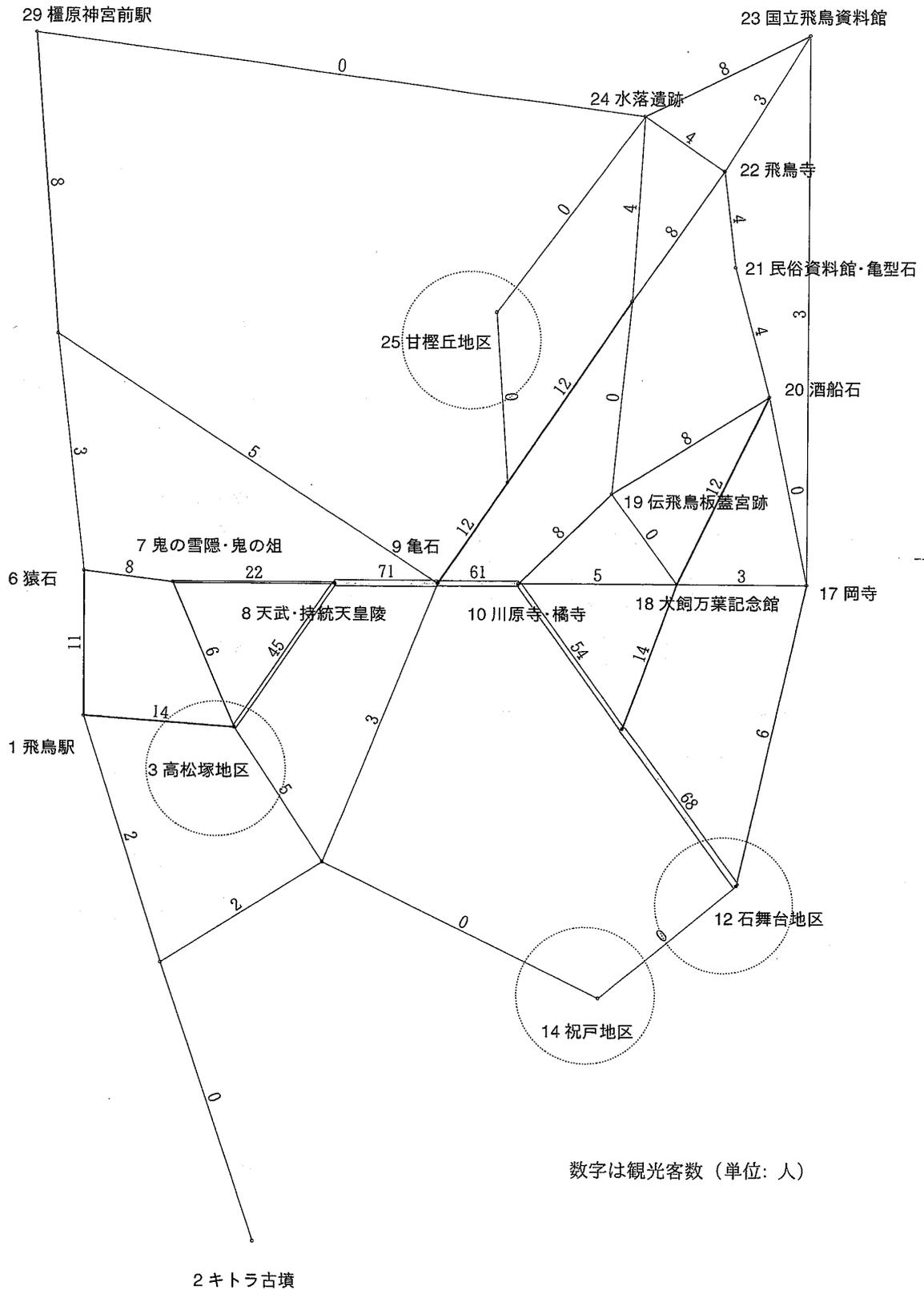
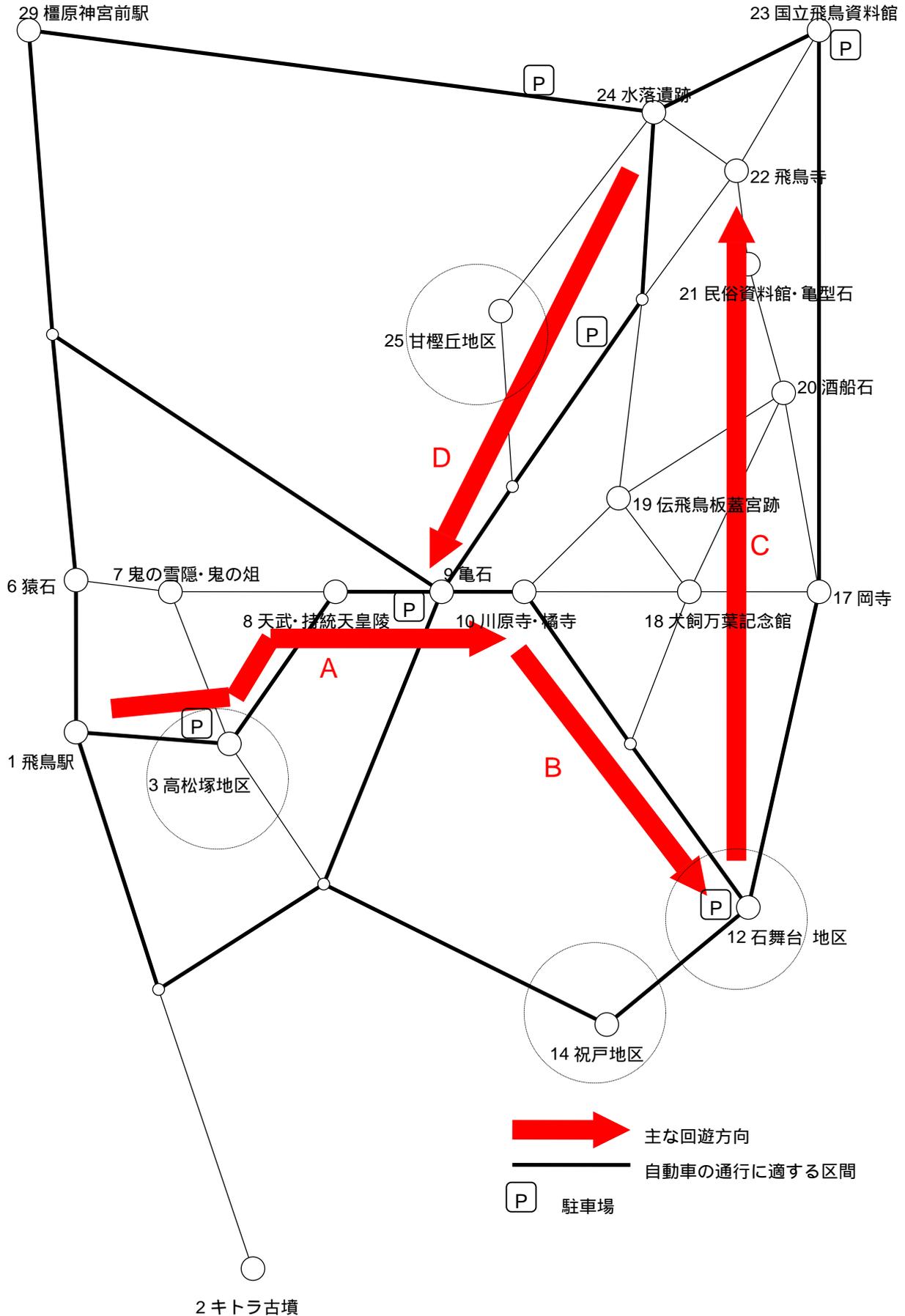


図3-9 明日香村における主要な周遊方向

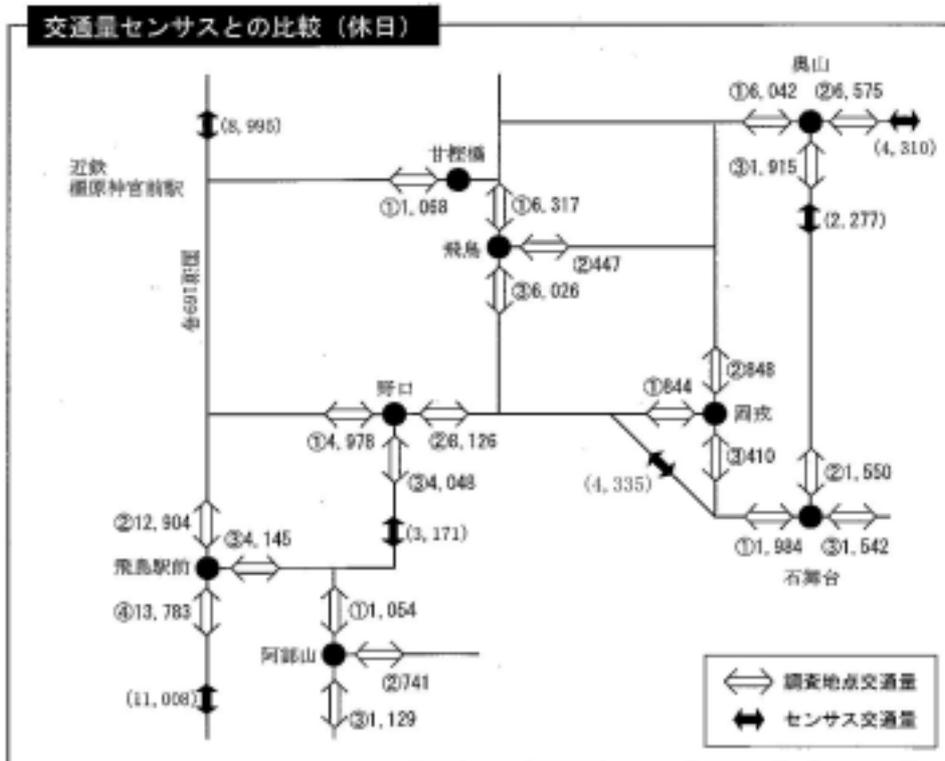
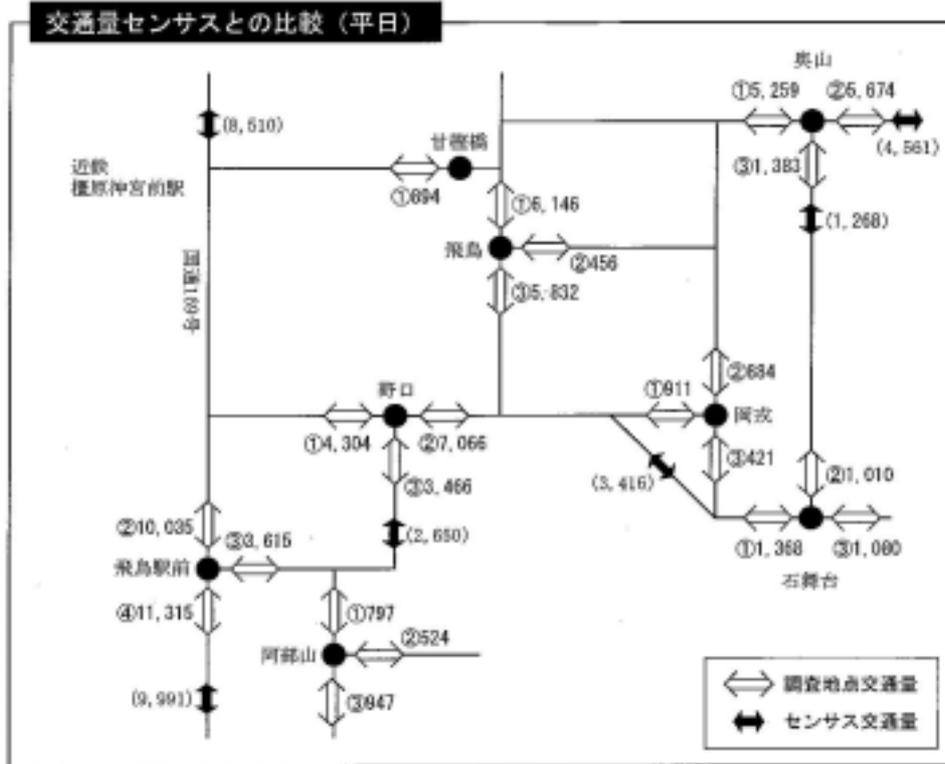


村内交通量

(資料：(財)公園緑地管理財団による平成15年10月23日(木) 平成15年10月25日(土) 調査交通量および平成11年センサス)

国道を除く村内の交通量は野口交差点、飛鳥交差点から南、奥山交差点の東西方向が多い。

図3-10 H15調査交通量とH11センサス交通量



(2) 観光利用のための施設の状況

1) 交通体系の状況

明日香村における交通体系は、自動車を中心とする道路交通と、鉄道・バスによる公共交通により構成されている。

道路交通 (図3 - 11、12)

道路交通は、明日香村と広域圏を連絡する広域幹線道路である国道169号、および明日香村と近隣都市間を連絡する都市幹線道路である主要地方道桜井・明日香・吉野線および県道多武峰・見瀬線、さらに地域内幹線道路である県道檀原神宮東口停車場・飛鳥線、同野口・平田線などを中心に形成されている。幅員別の現況をみると5.5m未満の区間が多く、観光客が集中するシーズンには混雑や歩行者の安全通行の阻害がみられる。

公共交通 (図3 - 13)

公共交通は近鉄吉野線が村西部を南北に走り、飛鳥駅が設置されている。バスについては平成15年9月から2ヵ年の実証実験が行われており、近鉄檀原神宮前駅及び飛鳥駅を起点として観光周遊にも利用できる周遊バス(愛称:赤かめ)と、主に村民利用を目的として各集落入口までのルートを行なう循環バス(愛称:金かめ)が運行されている。

駐車場およびレンタサイクル (図3 - 14)

駐車場は国営公園に設置された無料駐車場が計84台、公営・民営の有料駐車場が11箇所803台整備されている。また、自転車に乗って歴史資源や田園を周遊する形態が明日香村観光のひとつの形態として定着しており、駅前や駐車場周辺など村内外に10社(3,905台)のレンタサイクル業者が立地している。

徒歩・自転車によるネットワーク (図3 - 15)

徒歩や自転車による周遊観光のため国営公園やその他の史跡等の観光資源をネットワークする飛鳥周遊歩道が整備されているが、さらに既設の周遊歩道を補完するルートとして3ルートが計画されている。また、檀原から明日香村祝戸地区さらに南部の稲淵集落までの飛鳥川沿いの堤防部に広域自転車道である「飛鳥葛城自転車道」をサイクリング道路として整備することが計画されている。

2) 交通体系の整備に関する計画

第3次明日香村整備計画（平成12年9月 奈良県・明日香村）

明日香村特別措置法第5条第1項に既定する事業（特定事業）として、周遊歩道3ルート約2.6キロメートルの整備舗装・改良とポケットパーク1ヶ所1600㎡の整備が予算化されている。

第3次明日香村総合計画（平成11年3月 明日香村）

整備計画の3ルート新設と並んで、古道の掘り起こしや駐車場、サイクルステーションの整備がうたわれている。

万葉の道のネットワーク

住民生活の利便性と歴史的風土に調和した道路デザインとが共生した道路ネットワークを整備するため、快適な幹線道路整備、楽しく美しい道路整備、パーク&ウォーク・パーク&サイクルのためのステーション整備、周遊歩道とサイクリングロードなど、それぞれの道路の機能に応じた配置と整備を進める。

【周遊歩道についての施策】

周遊歩道の整備

現在の17kmの再整備とルートの新設

- ・牽牛子塚古墳～マルコ山古墳～キトラ古墳
- ・国営公園祝戸地区～朝風峠～高松塚古墳
- ・大官大寺～紀寺

休憩園地整備

周遊歩道沿いに休憩施設を備えた園地を整備する

【その他道路ネットワークについての施策】

古道の復元や伝承の道の掘り起こし

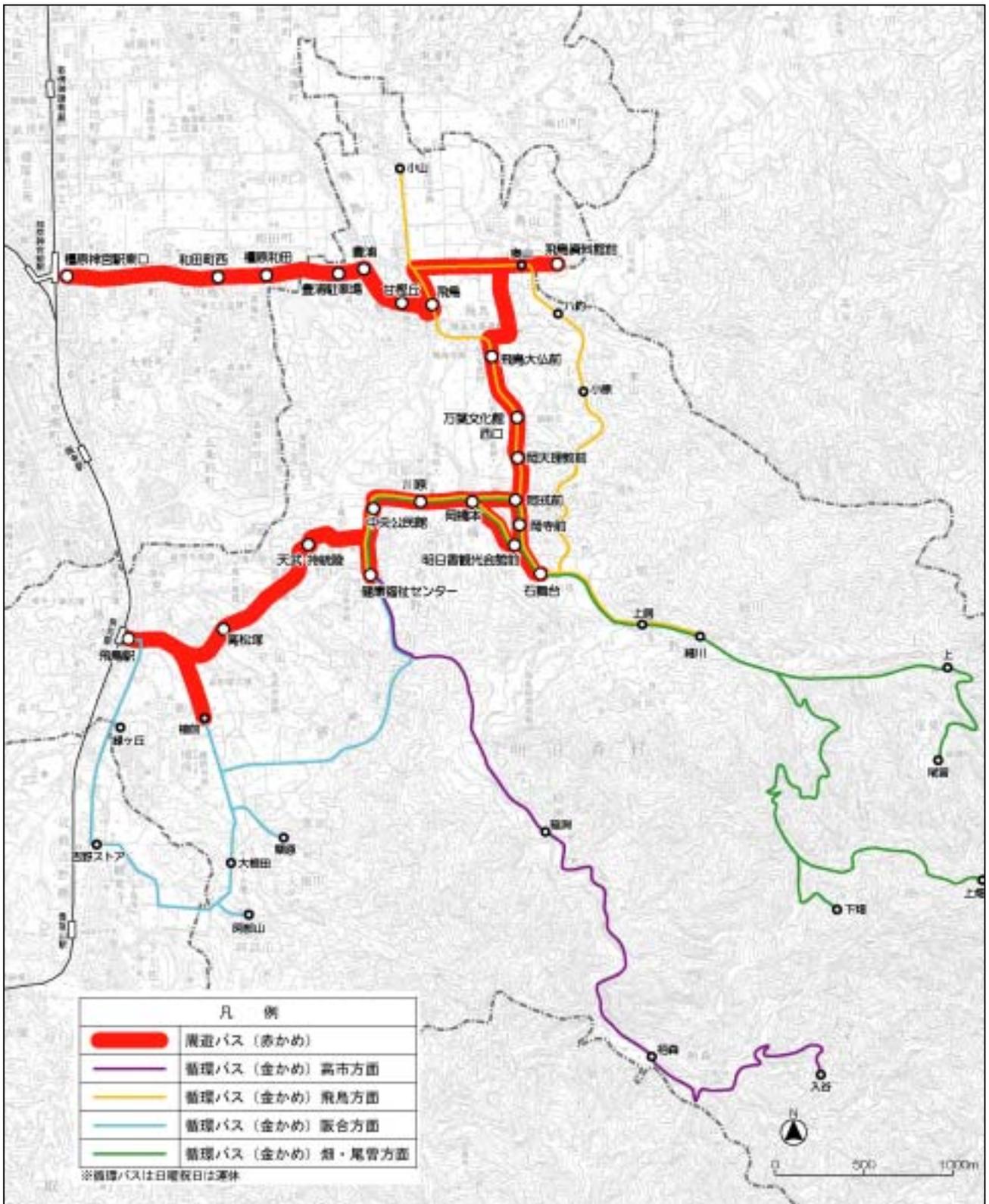
- ・中ツ道、山田道、下ツ道
- ・巨勢道、鬼伝説の道、みずかねの道、朝風の道

駐車場とサイクルステーションの整備

- ・石舞台地区、飛鳥駅前、野口地区、飛鳥水落遺跡周辺
- ・駐車場に併設した相互に乘捨て可能なサイクルステーションを整備
- ・レンタサイクルのネットワーク化
- ・サイクリングロードの整備

道路整備

図3 - 13 公共交通網図（社会実験中のルートを含む）



3) 周遊歩道の整備状況と現況課題

周遊歩道整備の経緯について

昭和 45 年閣議決定に基く周遊歩道整備

飛鳥周遊歩道は、昭和 48 年 12 月 18 日に出された「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定において、国営公園の整備と同時に一連の環境整備事業の一つとして整備されたものである。

この閣議決定に先立つ審議会（建設省歴史的風土審議会）では、周遊歩道の整備方針は以下のよう記されている。

幹線道路に囲まれた区域は、自動車による通行を原則として認めないため、周遊のための歩道網の整備を図る。周遊歩道は駐車場、史跡、公園、飛鳥川等を相互に結び周遊ルートを形成するように配置するものとする。

[第 14 回歴史的風土審議会資料（昭和 45 年 9 月 11 日）]

この時、同時に「自動車による飛鳥地方来訪者のために、幹線道路沿いに駐車場の配置は各方面からの自動車の処理が容易な位置に 6 ヶ所設けるものとする」として、菖蒲池地区と豊浦地区の 2 ヶ所に駐車場が整備されている。つまり、飛鳥地方の周縁部に駐車場を配置し、現在でいうところの「パーク&ウォーク」「パーク&サイクル」を実施しようというのが当初の整備目的であった。

昭和 45 年の閣議決定により、新設路線 4,220m、改良路線 2,700m の用地買収費及び整備費として、1 億 2,900 万円の予算要が国費として行われ、46 年度から明日香村の事業として整備が進められてきた。その後、明日香村第二次整備計画において 8km の新規舗装・改良が行われ、昭和 50 年までに約 15 km の整備が完了している。

表 3 - 6 周遊歩道整備の概要

路線名	延長	幅員	主な周遊地	事業主体	供用開始
第 1 号橋線	2.9 km	2.5m	欽明天皇陵、鬼の俎、鬼の雪隠、天武・持統天皇陵、亀石、橋寺	明日香村	昭和 51 年
第 2 号外回り線	6.6 km	2.5m	川原寺、甘樫丘、飛鳥浄御原宮跡、大官大寺跡、飛鳥坐神社	明日香村	昭和 51 年
第 3 号中央線	2.4 km	2.5m	飛鳥寺、板蓋宮跡、飛鳥川	明日香村	昭和 48 年
第 4 号酒船石線	0.5 km	2.5m	酒船石、板蓋宮跡		昭和 46 年
第 5 号飛鳥寺線	0.5 km	2.5m	飛鳥寺跡		昭和 51 年
第 6 号檜前線	2.3 km	2.5m	中尾山古墳、文武天皇陵、於美阿志神社	明日香村	昭和 48 年

[飛鳥らしい景観への事業化にむけて - 奈良県・財団法人都市緑化基金（平成 8 年 3 月）]

周遊歩道に関する課題について

近年の来訪者のニーズや、新しい史跡の発見などの変化に対応した施設整備や計画が求められている。

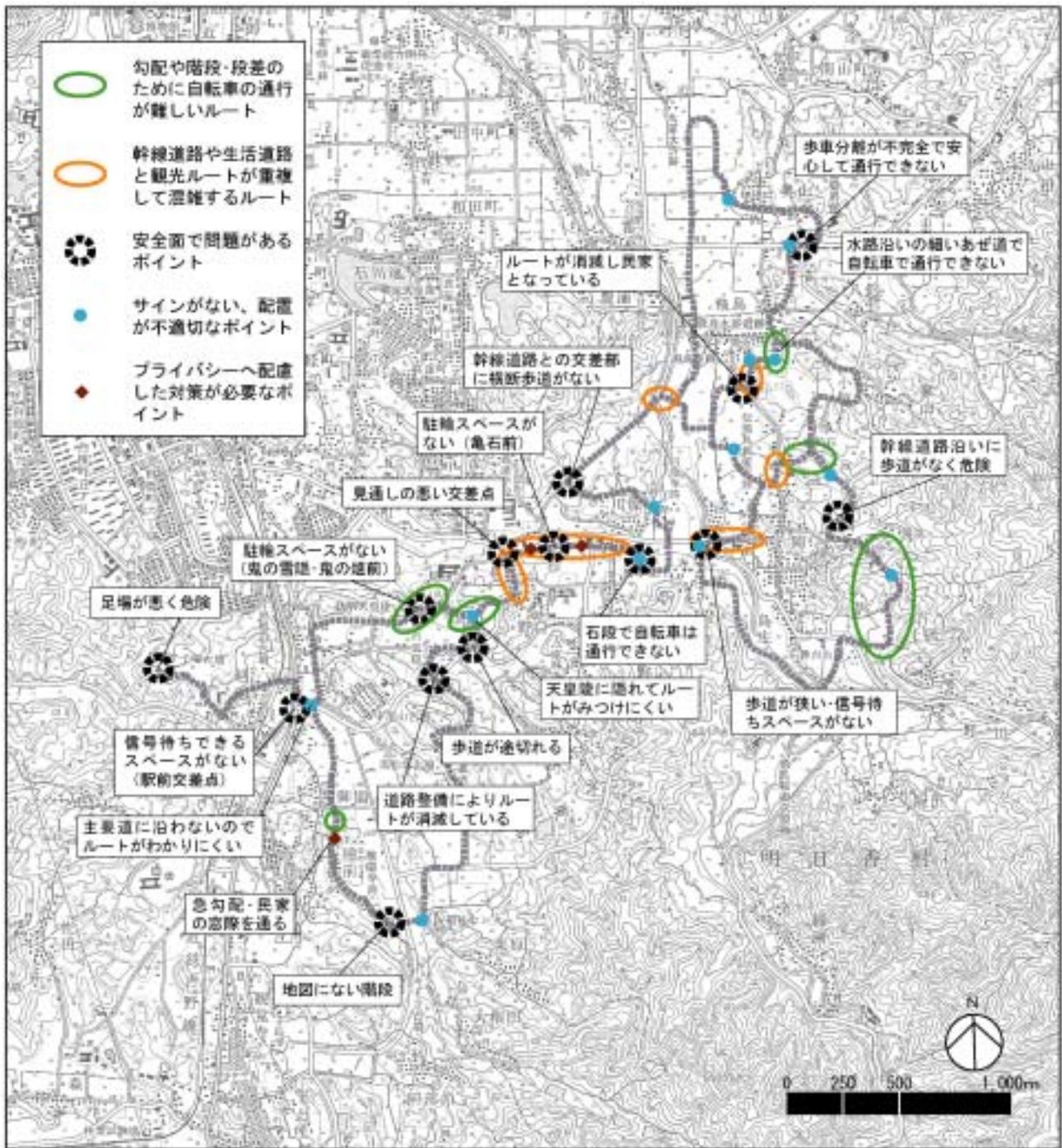
表 3 - 7 周遊歩道に関する課題

項目	現地調査、分析より
ルート	工事、開発に伴うルートの分断・消滅。
移動	歩車分離の不完全、異なる観光交通手段の交錯。 自転車道の未整備、駐輪スペースの不足。 交差点の見通しが悪い、信号待ちスペースがない。
バリアフリー	急勾配や階段についての情報提供の欠如。
誘導	適切な箇所にサインがない。 サインの統一性の欠如。 サインの劣化、破損による判読不能。
便益施設	休憩施設の不足。 トイレの不足。 食事・買い物のできる場所の不足。
景観	沿道での景観的配慮の不足。
情報提供	小さな史跡、発掘中及び埋め戻し後の文化財への解説不足。
プライバシー	沿道民家の庭先や窓際を通過する箇所がある。
ルート設定	史跡巡りに特化しており、近年多様化するニーズに対応できていない。
利用促進	現在、特に利用促進策が講じられていない。 観光マップ上の表記が統一されていない(名称、ルート等)。

図 3 - 1 6 課題箇所例：都市計画道路御園豊浦線の新設に伴うルートの分断箇所



図3-17 周遊歩道課題箇所図



主な課題点



■信号待ちや観光ポイント前のスペースの不足 ■工事、開発に伴うルートの分断・消滅 ■沿道民家へのプライバシーの配慮

4) 飛鳥におけるサインの現状

サインの種類と機能

サインは伝達機能により、記名サイン・誘導サイン・案内サイン・説明サイン・規制サインの5種類に大別される。

サインの種類と機能

種類	機能	表示内容	表示物	公共サイン例
記名サイン	事物の名称を示して他と識別させる	地名 道路名 河川名 トンネル名 交差点名 社名 施設名 など	名札 表札 のれん 看板 銘石 壁面サイン 旗 など	
誘導サイン	目的事物への方向を示す	目的事物+矢印 目的事物+指示(直進 mなど) 矢印のみ 目印の連続 など	誘導板 誘導灯 パイ 誘導舗石 などの道しるべ	
案内サイン	事物の所在と相互関係の全体を表す	地域 ルート 全館 フロア など	地図板 ルート案内図 館内案内図 など	
説明サイン	管理者側の意図や事物の内容を示す	お知らせ おことわり 料金 利用時間 広報 施設説明 展示物説明 由来説明 取扱説明 作動説明 風景説明 など	掲示板 告知板 解説版 説明板 プレート ステッカー など	
規制サイン	安全や秩序を保つための行動を促す	禁止 (...するな)	禁止表示板 禁止マーク など	
		注意 (...あり危険) (...に気をつけよ)	警告表示板 注意表示板 警告・注意灯 警告マーク など	
		指示 (...せよ)	指示表示板 指示マーク など	

(出典：日本建築学会編「建築設計資料集成」)

明日香村内のサインの現状

・サインの種類

明日香村村内において、記名サイン・誘導サイン・案内サイン・説明サイン・規制サインの5種類が確認された。

・サインの管理区分

飛鳥地方の既設サインの管理部署は基本的に次のように分類されている。

明日香村	誘導サイン、記名サイン、広域サイン等、飛鳥地方の主要なサインを管理している。
奈良県桜井土木事務所	道路標識及び道路に付帯したポケットパーク内のサイン。大型の交通標識は委員会を設けてデザインや設置場所について検討を行い設置している。
(財)飛鳥保存財団	飛鳥駅前の総合案内所内のサイン。
歴史街道推進協議会	各種サインの計画や表示内容に関して依頼のあった場合の監修を行い、監修協力したサイン施設には歴史街道のシールを添付している。

(出典：国土交通省近畿地方整備局「国営飛鳥歴史公園サイン利用促進検討業務」)

・サインシステム

飛鳥地方のサインシステムを体系的に整備することを目的に、平成13年2月、国営飛鳥歴史公園サイン計画利用促進検討委員会を設置、同年2・3月に検討委員会が開催され、飛鳥におけるサインに対する基本的な考え方や今後の飛鳥地方のサインシステムについて検討がなされた。

・サインの整備状況

上記検討により、飛鳥サイン計画が策定され、国営飛鳥歴史公園についてはサインの改修・整備が行われている。但し、飛鳥地方全体となると、費用等の問題もあり、整備が進んでいないのが現状である。

以下に、明日香村内で確認されたサインを種類別に示す。

記名サイン

施設等の名称を表すサイン。施設の入口部に設置されている。



設置者：奈良県立万葉文化館



設置者：民間（あすかおみやげ亀石店）



設置者：不明



設置者：民間（飛鳥寺）



設置者：民間（堂ノ前駐車場）



設置者：民間（川原寺つばき処）



設置者：民間（石田商店）



設置者：民間（西本モータース）

誘導サイン

矢印等により、施設等の方向やルートを表示。道路の分岐点などに設置されている。



設置者：明日香村



設置者：明日香村



設置者：国営飛鳥歴史公園



設置者：不明



設置者：不明



設置者：明日香村



設置者：明日香村観光開発公社



設置者：明日香村



設置者：不明

案内サイン

地図等により、施設等の位置関係を案内。駅前や国営公園入口等、比較的通行量の多い箇所に設置されている。



設置者：明日香村



設置者：不明



設置者：国営飛鳥歴史公園



設置者：明日香村



設置者：不明



設置者：明日香村

説明サイン

施設等の内容を説明。施設の入口部に設置されている。



設置者：奈良県 / 明日香村
(財)明日香村観光開発公社



設置者：不明



設置者：奈良県生活環境部風致保全課
明日香村企画課



設置者：国営飛鳥歴史公園



設置者：明日香村



設置者：明日香村駐車場連絡会



設置者：奈良交通

規制サイン

歩行者等の行動を規制するサイン。



設置者：明日香村



設置者：高市ライオンズクラブ



設置者：不明



設置者：奈良県・大和土地改良区



設置者：明日香村 / 岡大字



設置者：不明



設置者：不明



設置者：不明



設置者：不明

飛鳥におけるサインの問題点抽出

飛鳥におけるサインについて、サイン本体の損傷による機能低下、サインの混在による情報の混乱、周辺景観への配慮の3つの課題があげられる。

サイン本体の老朽化

経年変化によるサイン本体の損傷、表示板の汚れにより、サインとしての機能を果たしていない。



損傷が激しく、サインとしての機能を果たしていない。



汚れ、損傷が激しく、案内図としての機能を果たしていない。



表示部が一部欠けているため、説明文が読めない。



文字が薄れており、誘導サインとしての機能が低下している。

サインの混在

一箇所に何種類ものサインが混在しているため、必要な情報がすぐに得られない。



様々な種類のサインが混在しており、必要な情報がすぐに得られない。



サインが混在しているだけでなく、隣接地はゴミ置き場としても利用されている。



様々な種類のサインが混在しており、必要な情報がすぐに得られない。



カーブミラーとサインが重なっており、視認性が悪い。サインも混在している。

周辺景観との調和

他のサインと統一感がない、サインのベースに使用されている色が目立つ等、周辺景観との調和に欠ける。



サインのベースに使用されている色が目立つ。周辺景観への配慮が必要。



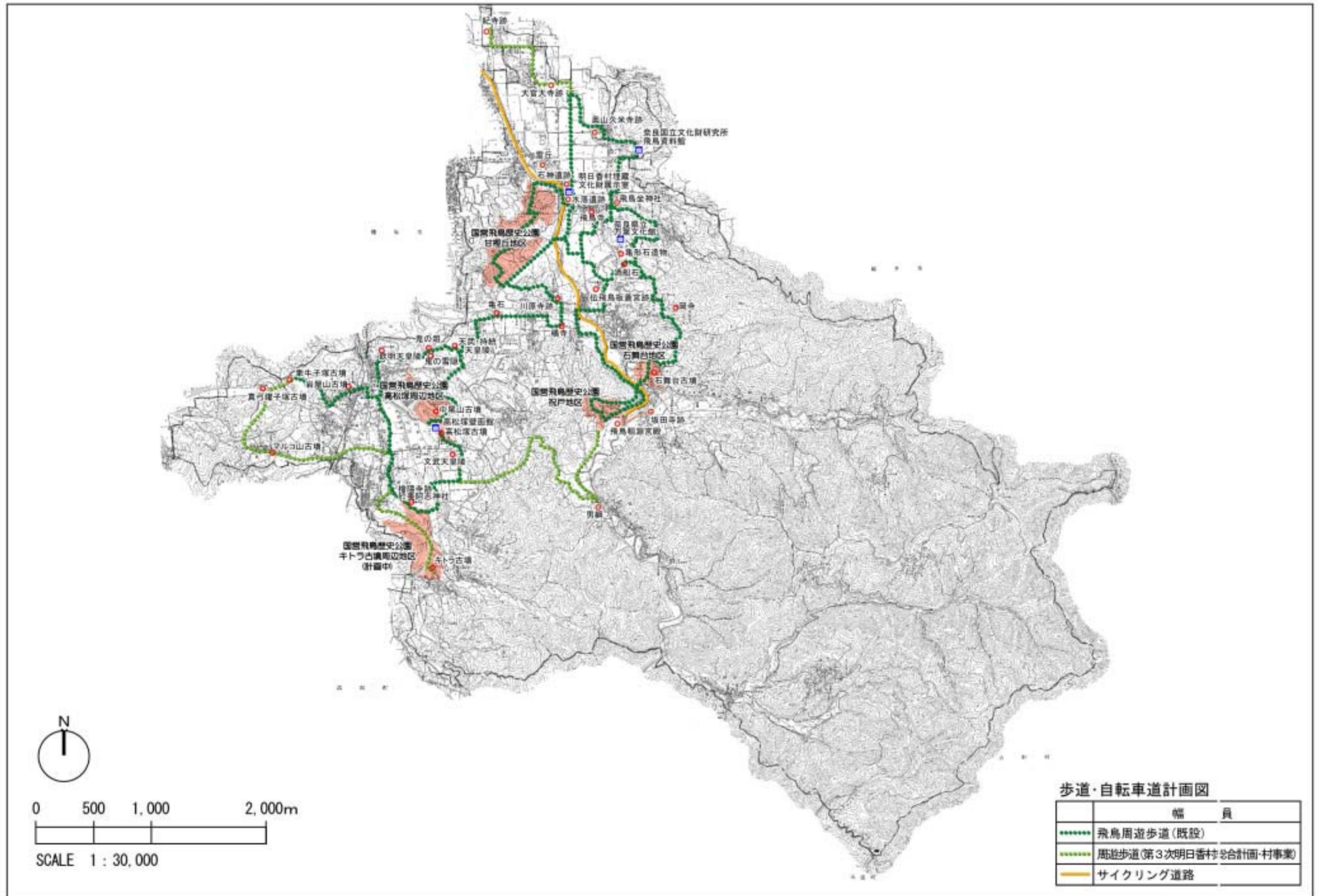
統一性のないサインが雑然と置かれている。



サインのベースに使用されている色が目立つ。周辺景観への配慮が必要。



他のサインとの統一感がない。



参考：平成7年度明日香村道路体系基本計画調査報告書